



徳嶺勝信

ベトナムでは政府の新型コロナウイルス対策が奏功し、7月25日まで感染者415人、死者ゼロが続く。市中感染も99日間ゼロだったが、その後、416人目の感染者が中部の観光都市・ダナン市の病院で確認された。

政府は市中感染の拡大を視野に、ダナン市および感染の疑いがある周辺の省の社会的隔離を実施した。第2波への政府の対応は迅速だったが、すでに市中感染が広がっており、わずか1カ月半後の9月9日には感染者数が634人増え、1049人に拡大。死者は35人となった。感染者のうち868人が回復済みで、ここ数日は感染者がゼロの日もあり、第2波を抑え込みつつある状況だ。世界的に見ても第1波の感染をうまく抑制していたベトナム。油断した訳ではないと思うが、市民生活が通常に戻り、条件付きで海外からの渡航者も受け入れ始めた直後の事態に、今後は政府もより慎重に対応すると予想される。

## 防疫と観光再開 板挟み

ベトナム

観光都市のダナンは、国内外から例年多くの観光客を招き入れている観光業が盛んな地域。それだけに「経済再開を念頭に動けば、感染拡大につながる」というシレンマに頭を痛めている。

政府は、ダナン以外の地域でも観光に力を入れており、2019年の外国人観光客数は、前年比16%増の1800万人に上る。観光業はこの国の大きな収入源でもあるため、政府は海外からの短期入国者の制限緩和を条件付きで検討している。入国前の3日以内にPCR検査を受け、入国後は専用アプリを取得し、2週間の行動スケジュールや宿泊先を提示する。3日ごとにPCR検査を受けることが入国の条件となっている。

私が暮らすホーチミン市も観光業が多大な影響を受け、ホテルや土産品店、レストランなどの閉鎖や休業が相次いでいる。一方で、計画的な閉鎖・休業もあり、コロナ収束後まで余力を残し、再度、事業を始めようと準備している事業者もいる。

日本では法的な強制力がないため、ベトナムと同じような対策を実施するのは難しいだろう。だが、沖縄も同じく観光都市である点を踏まえれば、他国の事例も参考にした対策を考える必要がある。

(VINACOMPASS代表)

今回は、県ソウル事務所の平安常幸所長です。